

すき込み期	線虫抑制						緑肥作物の効果					利用体系					利用例					
	ネコブ			ネグサレ			ナミシシユコフ	ダイズシスト	室系固着	塩類除去	土壌保全	塩水性改善	防風	景観美化	休閑	後作		ハウス	間作	果樹共生	永年利用	
	サツマイモ	ジャワ	キタ	アレナリア	キタ	ミナミ																ウルミ
出穂前後			○		○	○					○	○	○		○	○						ダイコン、ニンジン、ナガイモの線虫対策、キャベツ、ハクサイのフツフツ野菜畑に有効に。
出穂前後	○		○								○	○										晩夏播きでサツマイモネコブセンチュウ対策に。南九州など秋季節温暖な地域では9/中～9/下の種播が望ましい。
出穂前後			○									○	○		○	○						コンニャク、高原野菜の防風、敷わらに。
出穂前後	○		○								○	○										サツマイモの線虫対策に。
～出穂始			○		○							○	○	○		○	○			○		秋播きでキタネグサレセンチュウ対策に。春播きで雑草管理や土壌改良防止に。
出穂前後			○										○	○						○		高原野菜や雑穀畑の敷わらに。青枯病の草生栽培。
出穂～開花期			○										○	○								野菜類の防風・防砂・敷わらに。
出穂前後			○									○	○							○		果樹下草利用に。
出穂前後			○									○	○			○	○			○		晩生品種のため、休閑緑肥や果樹下草として長晩利用可。
播種50～60日後	○		○								○	○	○									サツマイモネコブセンチュウ対策に。ハウス、キュウリ、トマト、イチゴ、直ち野菜の有機物補給に。
播種50～60日後			○								○	○	○	○								ドリフトガード、防風に。
播種50～60日後			○								○	○			○	○	○					夏の休閑期の有機物補給に。
播種50～60日後			○								○	○			○	○	○					夏の休閑期の有機物補給に。
播種60日前後	○		○		○						○	○	○	○		○	○					根菜類の線虫対策に。
播種50～60日後	○		○		○							○	○			○	○					ソルガム類のいや地の影響を受けない。キタネグサレセンチュウおよびサツマイモネコブセンチュウ対策に。
播種50～60日後			○									○	○	○								水田転作後や湛留が起きやすい圃場の有機物補給に。
播種50～70日後	○	○	○		○	○					○	○			○	○	○					根菜類、果菜類の線虫対策に。
播種50～70日後	○	○	○		○	○					○	○			○	○	○					根菜類、果菜類の線虫対策に。
8月以降枯死			○									○	○			○		○				コンニャクの間作利用、ウリ類の下草利用、遊休地の雑草対策に。
霜降播種40日後			○									○	○				○	○	○			茶園・果樹園等でのリンビマルチ利用、畝間利用に。
自然枯死			○									○	○							○		草生栽培、刈取り管理不用で省力化に。
出穂期に刈払い			○									○	○					○	○			○ リンゴなどの果樹園の草生栽培に。
出穂期に刈払い			○									○	○					○	○			○ リンゴなどの果樹園の草生栽培に。
出穂期に刈払い			○									○	○					○	○			○ リンゴなどの果樹園の草生栽培に。
永年利用			○									○	○			○	○			○		○ 草生栽培、法面に。
永年利用			○									○	○			○	○			○		○ 草生栽培、法面に。
適宜（播種50日後以降）									○		○	○	○	○	○	○	○		○			遊休地の雑草・地力対策、果樹の草生栽培に。水稲、大豆の前作緑肥に。寒大型との混播利用で7/中頃の湛留として長期利用可。
適宜（播種60日後以降）									○		○	○							○			遊休地の雑草・地力対策、果樹の草生栽培に。水稲、大豆の前作緑肥に。
適宜（播種70																						

1) サツマイモネコブセンチュウの系統によっては抵抗性を示さないものがあります。2) 標高700m以上の高冷地では8月中旬以降の播種が可能です。3) 冬の気候条件によって、越冬割合が異なります(多雪地帯では越冬不可)。4) 虫害の発生が予想されますのでご注意ください。5) 気象条件により枯れあがらない場合があります。